

# こどもとしゃかん 1月あかべえ展示コーナー

## 干支の本

タイトル	著者名	出版社	
『イノシシとお月さま』	谷 真介    作 赤坂 三好    絵	佼成出版社	E/イ
<p>十五夜のお月さまに見せるだしものを、どうぶつたちが考えます。ウサギ、サル、キツネ、タヌキはきまりますが、イノシシはなかなかきまらず、十五夜になります。さて、どんなだしものをするのでしょうか。</p>			
『うりぼうのごちそうさがし』	国松 エリカ    作・絵	佼成出版社	E/ウ
<p>とうさんイノシシが うりぼうをつれて、ごちそうさがしにでかけます。とうさんいのしが みほんをみせますが、なかなかおもうとおりになりません。それどころか やまのなかまのとうみんを じゃましてしまいます。ごちそうをみつけないままおうちにかえります。さあ、つぎのひも ごちそうさがし。</p>			
『おしゃれなのんのんさん』	風木 一人    作 にしむら あつこ    絵	岩崎書店	E/オ
<p>イノシシの のんのんさんは、はだかもわるくないが、たまにはおしゃれもしたいなあとまちへでかけます。ぼうしをかぶり、ようふくをきて、くつをはきでかけるが、かぜでぼうしがとばされ、かわにおちます。ぼうしをひろうには、かわにはいらなければなりません。さあ、どうするのでしょうか。</p>			
『まゆとうりんこ』	富安陽子    文 降矢なな    絵	福音館書店	E/マ
<p>やまんばのむすめ まゆは、はやしのなかで うりんこぼうやにでています。ふるえる うりんこぼうやのおかあさんになり、せわをします。あそびまわる うりんこぼうやは、おかあさんイノシシのところにもどりあまえます。それを見て、まゆもやまんばかあさんがこいしくなります。</p>			
『ウリオ』	室井 滋    文 長谷川 義史    絵	世界文化社	E/ウ
<p>はじめは、小さくて可愛いウリ坊。みんなに可愛がられ育ったウリ坊でしたが、1年もたつと大きくなり、ウリオになっていました。家に入れてもらえず、外の木に首輪でつながれたウリオは山に帰りたくくなりました。首輪をひきちぎって逃げ出したウリオをみて、町中おおさわぎに……。</p>			
『しっかりはしれば一亥』	五味 太郎    作・絵	クレヨンハウス	E/シ
<p>イノくんが、すごいスピードではしりまわります。おともだちは、はやさにおどろいたり、じゃまされたり、ムードをこわされたり。だけど、はやいだけじゃないんだよ。うさぎさん、ねずみくん、ねこさんたちおともだちがなにをしているか、しっかりみているんだよ。</p>			
『十二支のはじまり』	岩崎 京子    作 二俣 英五郎    絵	教育画劇	E/ジ
<p>じゅうにがつのあるひ、かみさまは、おしょうがつにおおぜいきてくれればたのしいのにとおもい、あることをおもいつきます。「いちがつついたちに、ごちそうかいをひろくのでみなさんきてください。じゅうにばんめまでくると、ごほうびがあります。」と、さそいます。さて、だれがやってきたのでしょうか。</p>			
『十二支のことわざえほん』	高畠 純    作・絵	教育画劇	E/ジ
<p>十二支のどうぶつのことわざを絵と文でわかりやすく説明しています。 「ふくろのねずみ」「牛歩」など、ねずみからイノシシまで順番に出てきます。えほんで「ことわざ」をおぼえてみるのも楽しいですね。</p>			
『じゅうにしのおはなし』	ゆきのゆみこ    ぶん くすはら順子    絵	ひさかたチャイルド	E/ジ
<p>あるとき、かみさまは、まいとしおなじよみはつまらないとしょうがつのがんたんに、はやくきたものからじゅんに、じゅうにばんめまでをまいとしのなまえにすると、どうぶつたちにつたえました。どうぶつたちはどうしたら、じゅうにばんめまでになれるかかんがえます。ねこは、ねずみにだまされ……。</p>			
『ウリボウなかよしいかぞく』	結城 モイラ    作	ポプラ社	489.8/ユ
<p>イノシシのあかちゃんは、うりのもようをしています。だから、ウリボウ。いっしょにうまれたきょうだいみんななかよし。いつもいっしょにあそんでいると、おっぱいのあいずでおかあさんにまっしぐら。おなかがいっぱいになっておひるね。おかあさんがうごけば、あとにつづく。いつも、なかよしです。</p>			